



TITLE:

新館紹介 教養部図書室,法学部図書室,経済学部図書室

AUTHOR(S):

CITATION:

新館紹介 教養部図書室,法学部図書室,経済学部図書室. 静脩 1973, 10(1): 3-5

ISSUE DATE:

1973-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36715>

RIGHT:

新館紹介

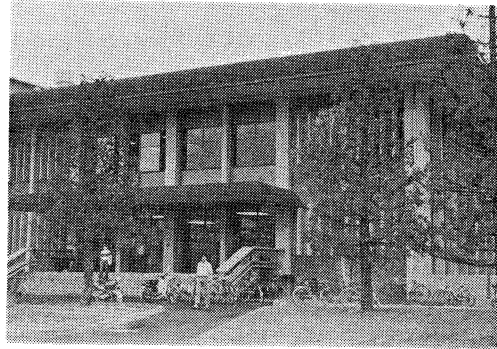
教養部図書館 法学部図書室 経済学部図書室

教 養 部 図 書 館

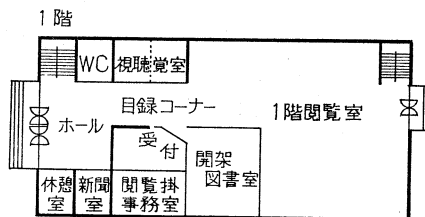
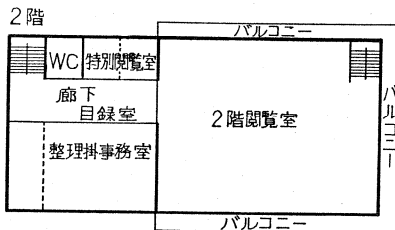
三高時代から多くの図書館利用者に親しまれてきた教養部図書室は、何万人もの卒業生たちの青年時代の思い出を残したまま壊されて、新しく教養部図書館として建てられ、5月7日に開館されました。

場所は、旧図書室の東、教養部キャンパスのほぼ中央（A号館とD号館の間）で、どの教室からもあまり遠くない位置にあります。

図書館は写真のように、2階建てで、まわりの四角ばった建物と違って明るく、何か親しみのもてる感じで気軽にはいれる雰囲気をもっています。



平面図



玄関をはいると、1階は図のような配置になっており、新聞室には当日の朝刊が6種類おいてあります。

教養課程学生が図書を利用する場合、まず図書館に登録しなければなりません。この手続きは学生票と印鑑をもってカウンターへいけば、図書帯出券を発行してくれます。教養部以外の利用者（学内者）には、所属する各学部の図書室で発行している「京都大学図書相互利用書」をもっていけば利用できます。

カード箱とカウンターの間をいくと閲覧室があります。座席数は200席で、2階の閲覧室とあわせると500席になります。視聴覚室などもあり、旧図書室（184席）のような窮屈な状態

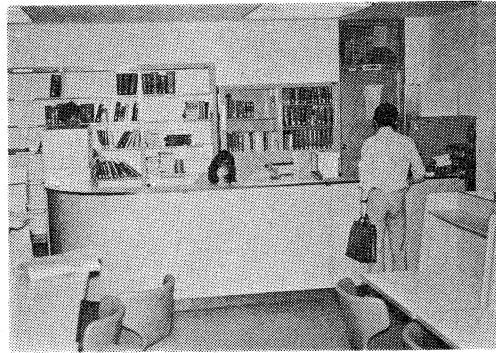
はなくなり、のびのび勉強できるようになっています。また、2階閲覧室周囲のバルコニーからのながめもよく、近くは吉田山、遠くは比叡山を望むことができ、勉強の疲れをいやすことができます。

法 学 部 図 書 室

法・経両学部は、昨年4月、永年の念願がかない、ようやく新しい研究・図書館棟をもつにいたった。

「法科大学」以来、歴史を誇り、多くの優れた研究者を生み育ててきた由緒ある赤レンガの2階建てから、鉄筋コンクリートの5階建てへと建てかえられた。

まず、新・旧両建物を比較すると、数字的には下記のようなになる。



	(旧)	(新)
閱 覧 室：	な し	357m ²
閱 覧 座 席：	な し	92 席
書 庫：	684m ²	2,280m ²
複 写 室：	な し	56m ²
事務スペース：	約150m ²	381m ²
エレベーター：	な し	2 機（書庫・研究棟・各1）

（注）書庫は両学部で8層、将来は地下を2層にして9層にする予定。

新館ができて特筆すべきことは、赤レンガ時代、法学部は「閲覧室」をもっていなかったが、新たに閲覧室が設けられたこと、書庫が数カ所に分かれていたのが1カ所になったことであろう。

内容的には、経済学部といっしょの建物で、「社会科学系図書館」として建てられたことである。これが計画された時の構想は、部局の枠をこえた「社会科学」という主題をもった図書館が描かれていたのである。しかし実際には種々の問題で法・経別々の運営がなされていて「社会科学系図書館」としての機能は発揮されていない。現在少しでも進行していることといえば、両学部で重複して購入している雑誌、新聞縮刷版の調整、出版物の交換先の請整等のことである。

資料数でみると、両学部で約65～66万冊の蔵書（法：約37万、経：約28万）をもっている。この量は中規模の大学全体の蔵書冊数に匹敵するくらいである。内容的に法学部の蔵書

構成をざっとみたところでは、単に法学・政治学のみならず、哲学・歴史・心理学などの隣接領域の諸学問を含んでいる。このことは経済学部においても同様であろう。以上のことから推し測るに、両学部で社会科学関係の資料はほとんど揃っているといっても過言ではないだろう。

新館を機に新たに学生の閲覧等を加えて、今までの研究者中心の図書室から、法学・政治学を学び研究する人たちのための「法学部図書館」へと動きだしたかにみえる。また、「閲覧・貸出し規程」の改正作業が現在行なわれている。そこでは法学部が今までかかえていた問題点が深き彫りにされ、「案」に対して図書館、大学院、学部学生の意見を聴き、少しでもよいものをつくるよう努力されている。

経 済 学 部 図 書 室

昨年春に完成した法・経両学部の研究・図書館棟の1階にある経済学部閲覧室は、その内部を大きく分けるとカード目録を中心に、図書コーナー、雑誌コーナー、閲覧席にわかれており合計約70の座席がある。

図書コーナーには和・洋の新着図書をはじめ、教官の指定による指定図書、文献探索のために必要な辞書類および二次資料等、約4,000冊が開架されている。また雑誌コーナーには国内雑誌約200種、外国雑誌約300種の各最近1年分が自由に閲覧できるように排架されている。

一方、書庫には約28万の蔵書があり、その内容を見ると経済学、社会学関係はもちろん、近接学問としての地方誌の集書の多いことは文学部につぐものであり、その他哲学・政治・法律・教育等の広い分野にまで及んでいる。

昨年10月16日新閲覧室開室以来利用者数は日に日に増加し、最近では時間によっては閲覧席は満席の盛況であり、閲覧・貸出を通じ利用者の所属を見てみると、経済学部3に対して他学部1という割合がでており、いかに経済学部の図書室が広く利用されているかがわかるのである。

なお図書室の運営、購入に対する図書の選択等については、教官・大学院生・学生・図書掛によって構成されている図書委員会において検討し審議される等、より良い図書室をつくり上げるための活動がなされている。

